



第 138 号

2023 年 8 月 9 日発行

NPO 法人萌

代表 波多江文哉

横浜市戸塚区深谷町 893-2

B 型事業所 工房いなほ

相談支援事業所 ふかや

グループホーム 独歩

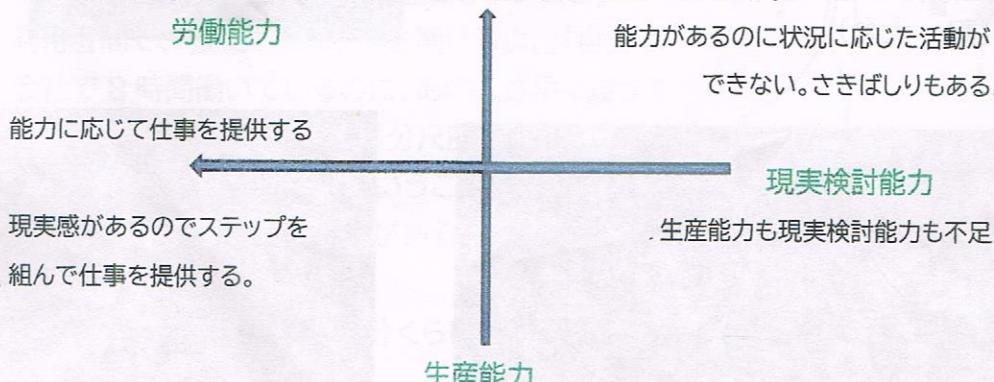
運送事業所みやけ

Tel 045-390-0625

URL <http://www.mo-e.jp>

仕事の遂行を知る

- ① 当事業所は就労支援を行っています。当然のように就労支援のサービス内容を理解しておかなくてはなりません。仕事の心構え－仕事の態度－技術の向上の 3 ステップを踏まえて支援しなくてはなりません。
- ② この 3 ステップは就労したいという利用者を対象としていますが、実際は「地域活動センターにいきたくないので B 型にきた」「働いたことはないけど働きたい」など 3 ステップ前の段階にいる利用者が多い。
- ③ A 型希望者はそれなりに仕事の心構えはできていますが、B 型の希望者は日常生活や社会生活が不安定でそれで働きたいという人も多い。
- ④ 着目点は<仕事の心構え＝準備性>です。仕事をするために睡眠を十分にとり、仕事に間に合うように早く起きて身なりを整えて、食事をして家を出る。毎日通えるように体力を作るなど職業人としての心構えを準備性といいます。障害者は仕事の準備性が不足しています。
- ⑤ 次の着目点は<仕事の態度>です。仕事時間を守る、敬語を使う、あいさつをする、作業に応じた服装をする、上司の指示に従う、仕事と休み時間の区別をする、おしゃべりはしないなどを労働態度といいます。
- ⑥ 現実検討能力とは目的－目標－達成課題－遂行などを具体的にイメージできる能力のことです。この能力の判断はひとつの課題をどのように成し遂げていくのかを具体的に語ってもらうことです。図にするところなります。



農業だより

今畑では、きゅうりの収穫を終え、なす・トマト・ゴーヤ・カボチャの収穫を適宜行っています（とうもろこし・ピーマン・ズッキーニはうまくいきませんでした）。一度にたくさんはとれず、せいぜい3～4個ずつです。唐辛子も少しずつ赤くなり収穫をまっています。また、サツマイモ・里芋・ヤーコン・ねぎも何とか育っています。今年は空梅雨で、7月半ば過ぎから畑の水やりを余儀なくされました。利用者さん達にあらかじめ水を溜めてもらい夕方まいています（この暑さでは昼間水をまくことはできません。土の中で蒸れてしまい根をだめにするらしいです）。野菜達にはこの暑さを何とか乗り越えてほしいと思います（記 森川）。

毎日35度近くの気温が続き畑作業は大変です。月・水・金は利用者と職員たまに所長がいて5～6人います。こまめの休けいと水分補給はかかせません。炎天下で作業すると冬場に比べて作業効率が落ちます。ここ最近雨がふってなく土がさらさらで砂ほこりがひどく、草取りが一苦労です。8月1日にやっと雨がふってきました。

ニュースで今年は猛暑（35度以上）で野菜ができる（例年のように）とか農家さんが言っていました。いなほの畑もきゅうりが去年より収穫の数が少ない、ピーマンにはカメムシが大量について処分することになるなど虫の被害に悩んでいます。虫とのたたかい、暑さとのたたかいが続いています。いつになつたら、この暑さが落ち着いて涼しくなるのか、10月くらいまで続くとか（報道されてる）いわれてますがわかりません。天気は読めません。自然ですから。春・夏・秋・冬と四季があってそれなりの季節感があります。

9月に入ったら秋、こよみ的に畑も秋らしくさつまいもの収穫が近くなるなど畑にも変化があります。1年の半分が過ぎて前半は販売も順調で6月あたりから暑さがだんだん増して7月あたりから炎天下の作業が増えて野菜もあまりとれません。販売には行っていますがこれからが心配です。（記 大倉）



計画相談の状況

計画相談は少なくとも利用者の所に2回はいく。1回はモニタリングをしに2回目はサインをもらいに行く。契約を交わした利用者には月に3か月は1回ずつ、その後は3か月に1回である。わずかの日時合って、どれだけ本人のことを分かり、本人と信頼関係が作られるのだろう？行政が考えるのは、1か所でまとめてとる、モニタリング月と同じにして手間を省く。という事業者説明会での説明であった。そのようにうまくいくのかは疑問。

保護者には計画相談を飛び越えて、受給者証のサービス内容を、区役所に行って変えられた方もいる。そして区役所はそれを受理していた。保護者が高齢になり、緊急を要する事項を区役所に手紙を書き、サービスの変更を示すサービス等利用計画を出しても、待てど暮らせど返事は来ない。読んでいいのか、机の上に放置されているか？は疑問。

計画相談のモニタモニタリング書を作成し、日中サービス支援先に送っても、果たしてそれが役立っているのかは、知ることはできない。今やっていて、一番良い対応をしているところは入所施設支援をしているところである。サービスがきちんと対応してくれる。保護者にモニタリングを送ると、手紙でコメントをくれる。読んでくれているのだと感謝している。

では契約した本人はどうか？「仕事をしているが給与はすべて使っている。なくなれば生保を受けるつもり。一人暮らしなど考えたこともない」（ホーム在住）

「自分たちが生きている間は家族で楽しく過ごさせたい」（保護者）等々……生活者としての障害者などいないのがほとんどだ。計画相談は頑張っても赤字だ。処遇改善加算もベースアップ加算もつかない。実際、株式会社の運営する計画相談は撤退している。

数をこなし一ヶ月～人やれば、1年で年収400万近くになると行政は言うが、そもそもそんな多くの人数をこなせるかと言えば、とても私には不可能である。

暑い日、モニタリングに行く中…ふと、やる気が小さく小さく…しほんでしまう。サービスがいきわたり、地域で生きていくぞという強さが消えていったのか？

グループホーム独歩から

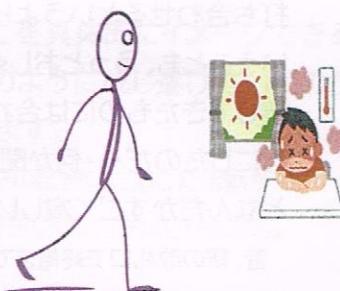
7月利用者ミーティングを開催した。

テーマは「自分の在り方は人に強要しないこと」

利用者間で、「換気のためドアを開けろよ」、「自分は会社で8時間働いているのに、あの人は早く帰ってきてる」などなどがあり、自分尺度で他の人のことは考えないようにしてほしいということが、話された。

人には各々の生活スタイルがある。利用者同士がそれぞれ、嫌な思いを抱かず、過ごすことには必要なテーマである。

利用者ミーティングは15分くらいを目安にしている。継続が何より大切である。





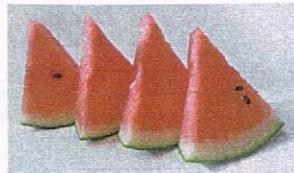
この暑さは何なのだ？

地球温暖化は深刻な状況になっている。

農業の作物も日照りで影響を受けています。野菜はこれから値段が上がるだろう。

今、温暖化の深刻さを取り上げて、それこそ第一課題で話し合うべきである。北極では氷がどんどん溶けている。

自然は無慈悲である。人類も真剣に考えないと、大変なことになる。



僕達暑いよ…



編集後記

自分が高齢化するにつれて、何事も急いでできなくなってきた。次の行動に移るのに一呼吸おく。今はスマフォが発達しており、いつでも電話ができるので、すぐに、連絡がとれるから、返事が遅れると、どうしてすぐに連絡してこないのだ、という人も現れてくる。1日待つということがなくなった。緊急性などないことまで、すぐに、連絡が来ないと苦情が生まれる。

ラインやらチャットやら、「すぐに」の文化は他にもある。ただ、「すぐに」の文化に、果たしてどこまで問題の解決能力があるのかはわからない。そこに下手に本音を書くと炎上してしまうことが多いので、自分のようなタイプには合わないとわかり、そういうシステムから引退することにした。合った時に入念に打ち合わせるというより、日々単発で現れてくる指示、毎日パソコンを見るということも、うっとおしくなった。こういう文化は自分のような古い文化を体験してきたものには合わないので。合わせるのはストレスなのでもうやめることにしたのだ…何か聞くと、あれ、チャットに書いてあったでしょと言われるとなんだかすごく寂しい。

昔、駅の改札口で終電まで、人を待っていた、その日その駅で待ち合わせていたから。今ならスマフォですぐ連絡が取れて済むことかもしれない。その当時はそうするしかなかった。ただ、それが無駄だったかというと、待つという行為の中で、自分は様々考えるという作業をすることができ、無駄時間とは感じなかつた。

(波多江久美子)